

(15ページから続く)

製造実態に齟齬がないか調査を求め報告命令を出したが、化血研は不正製造の事実はなく、隠ぺいもなかったと発表し、厚労省に真っ向から反論した。

そんな最中、化血研の事業譲渡に向けて交渉していたアステラス製薬は、協議の打ち切りを発表した。塩崎恭久厚生労働相が再三にわたって事業譲渡を促してきたものの、交渉

は振り出しに戻ってしまった。塩崎厚労相は、「長年にわたって化血研の製品を販売し、取引があったアステラスとも合意できなかったことは、関係者の化血研への信頼が崩れ、不信感が高まっていることの表れ」と厳しく批判。「事業譲渡しなければ化血研は終わってしまう」と強く警告したものの、未だ決着は見られていない。



プランの重要分野の一つである抗菌薬の適正使用については、さらに専門的に議論するため作業部会を設ける。

作業部会では、一般診療の場で適正使用に重要な項目について、実践的な対応を解説したマニュアル「抗菌薬適正使用の手引き」(第1版)を作成するための検討に取りかかる。手引きは外来診療に携わる医師などの医療従事者が使うもので、基礎疾患のない軽症患者への対応を想定。総論と各論で構成し、第1版の各論では、かぜと急性下痢症について解説する。

各論では、特に抗菌薬を使うべきかどうか迷う状況での助けとなるよう適切な診療の進め方、患者や家族への伝え方について実践的な対応を

盛り込む。手引きは30~40ページ程度の簡易なものを目指すとしているが、小児科医の委員からは、「なかなか現場では抗菌薬の選択が難しく、判断に迷うケースが少なくない。全ての病原菌を即座に確定できないので、いろいろな角度から抗菌薬を出す、出さないを含めて判断せざるを得ない」と臨床現場の実情が訴えられ、「現場に役立つ手引きを作るのは容易ではない」と課題も指摘された。

厚労省は、かぜに抗菌薬を使わないための適正使用がまず重要との考え。今後、特に必要な疾患については第2版以降の手引きで対応していくとしている。そのほか、抗菌薬の研究開発や国際協力への対応についても議論していく。

抗菌薬適正使用へ国が手引き

20年の政府目標実現に向けて

厚生労働省は、世界的な課題となっている薬剤耐性(AMR)について、政府の行動計画であるアクションプランの実行に向けた議論をスタートさせた。2020年までに抗菌薬の使用量を約3割減らす目標に向け、国が抗菌薬適正使用の手引きをまとめる。

新たに設置する作業部会で、まず手引き第1版の策定に着手し、日常

診療で多く見られるかぜや急性下痢症への対応について具体的な検討を進める。

政府は20年までのAMRに対する行動計画を打ち出し、抗菌薬の適正使用に関して13年比で約3割減少させる目標を打ち出している。厚労省は、AMR対策を強化するため審議会のもとに小委員会を設置し、議論をスタートさせた。アクション

みなさんこんにちは。今回は、薬が“人の将来にどのような影響を及ぼしていくか”という観点から、DPP4阻害薬に関する臨床試験をご紹介します。薬の“効果”についてお話ししました。薬の効果と言っても、考え方1つでその認識が大きく変わることがよくお分かりいただけたかと思えます。

薬の効果に関する情報、つまり医薬品情報ですが、様々な観点から膨大な情報が日々蓄積されています。その全てを把握することは難しいですが、ひとまず医学や薬学に関する研究を、大きく臨床研究と基礎研究に分けるとよいでしょう。このうち、ヒトを対象として薬剤効果等を検討する研究を臨床研究と呼びます。いわゆる臨床試験は臨床研究の代表的なものです。一方で、動物もしくは培養細胞等を対象に行う研究は基礎研究と呼ばれます。



医療法人徳仁会中野病院薬局 青島 周一

これから『薬』の話をしよう

どんな情報を追えばいい？

臨床現場において重視すべき情報は、やはり臨床研究の結果になるでしょう。基礎研究を軽視するわけではありませんが、その結果はヒトに対してはあくまで仮説にすぎません。動物で示された効果がヒトで示されるかどうかは不明ですし、ましてや前回お話した薬の予防的効果となれば、全くの未知数といえるでしょう。

臨床研究に関する論文情報を一般的には“エビデンス”と呼びます。エビデンスを調べていくと、著明な予防的効果を有さない薬剤は決して少なくないことが分かります。それどころか、人の将来に何らかの悪影響を及ぼす可能性を示したエビデンスも存在します。

僕は以前、慢性閉塞性肺疾患に対する

チオトロピウム(ミスト吸入製剤)という気管支拡張薬に関するメタ分析(BMJ. 2011 Jun 14;342: d3215)の結果に大変衝撃を受けました。メタ分析とは複数の臨床研究データを統合解析する研究手法で、この研究では5つの臨床試験が解析されました。その結果、チオトロピウムを使用していると死亡リスクが52%増加することが示されたのです。

もちろん1つの研究結果が必ずしも真実を示すわけではありません。とはいえ、日本で「医薬品」として承認されている薬剤でも、このようなリスクが報告されているというのは、なかなか衝撃的なことではないでしょうか。こうしたエビデンスは他の薬剤でも多々報告されているのです。

一日も早く薬剤師になりませんか

確実に進級し、卒業試験を突破し、国試に無事に合格するために

- 個別指導
- プロ講師
- 国試・進級支援
- オンラインサービス

薬学部が6年制になり、薬剤師国家試験に合格することが年々困難になっています。しかしこの困難な国試に合格するためには、まず確実に進級しなければならないのですが、残念ながら今この大前提が大きく揺らぎつつあります。アイファ名古屋は「基礎の理解」こそ、この困難な現状を打破する唯一の方法だと考えています。その正しさは、当予備校の実績が証明しています。なお、インターネットによるオンライン授業も実施しています。詳しくはお問い合わせください。

全国どこからでも受講可能!

Google Yahoo!で **アイファ名古屋** 検索 URL <http://alpha-nagoya.jp/>

薬剤師国家試験合格塾・薬学部進級支援 **アイファ名古屋** 052-220-5446

〒460-0003 名古屋市中区錦2-19-11 綿常HD長者町ビル5F

